

1984 年日本のヘヴィメタル

—音楽雑誌「Music Life」と『BURRN!』の接続—

永田幹人（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程）

本発表では 1984 年の日本におけるヘヴィメタル解釈の共時的なまとめ（ヘヴィメタル観）を、同年に発行された音楽雑誌『ミュージック・ライフ』（以下『ML』）、『BURRN!』の誌面分析を通じて考察する。

ヘヴィメタルは 1970 年頃までにイギリスで誕生した大音量のバンドサウンドを特徴とするロックの派生形である。その人気は一度下火となったものの、パンクロックの影響を取り入れたスタイルである「NWOBHM」が 1970 年代末のイギリスで流行しはじめ、1980 年代からは国際的な潮流へと拡大した。1980 年代前半の日本でも、関西圏にヘヴィメタルシーンが形成され、欧米のヘヴィメタルバンド五組を迎えた大規模な音楽フェス「スーパーロック '84」が国内四カ所で開催されるなど、市場は広がりを見せていた。

国内でヘヴィメタル流行が過熱していた 1984 年に、シンコー・ミュージックが創刊したのが日本初のヘヴィメタル専門誌『BURRN!』である。Kawano & Hosokawa (2011) は、『BURRN!』が 1980 年代後半からファン雑誌と業界誌の役割を兼任するヘヴィメタル市場にとって「唯一の権威的な声」（p.265）として機能してきたこと、さらに『BURRN!』が「独自のルールでジャンルを定義」してきたことで、日本市場におけるヘヴィメタルの定義が英語圏におけるそれと乖離していること（p.253）を指摘し、日本のヘヴィメタル市場の特異性を明らかにしている。

『BURRN!』はまた、『ML』の「別冊」版として創刊された歴史を持つ音楽雑誌でもある。1937 年に創刊された音楽雑誌である『ML』は、ビートルズの特集記事で発行部数を伸ばした 1960 年代半ばの誌面が特に詳しく検討されてきたものの、1980 年代以降の状況に関する議論は限定的である。だが、2025 年 3 月に開催された「日本ポピュラー音楽学会卒論修論発表会」で報告したように、『ML』は 1980 年から積極的にヘヴィメタルを特集し、同年 10 月に増刊号『ザ・ヘヴィ・メタル』を発行するなど、1970 年代から 1980 年代初頭にかけての日本におけるヘヴィメタル初期受容に重要な役割を果たしていた。

そこで本発表では、二誌間における編集方針の継承関係にも注目しつつ、『BURRN!』という新たな雑誌が独立した意味を検討することで、日本におけるヘヴィメタル観の様相を考察したい。

参考文献

Kawano, K., & Hosokawa, S. (2011). Thunder in the Far East. *Metal Rules the Globe: Heavy Metal Music Around the World*, Duke University Press.